

市民参加による地域計画課題の発見について

呉高専 正員○市坪 誠 広島国際大学 正員 長町三生 香川大学 正員 白木 渡
呉大学 正員 今田寛典 竹中工務店 溝上裕二

1. はじめに

近年、公共事業のあり方が問われ、行政事業計画における調査から供用までの各段階で地域住民の参加とその合意が求められている。公共事業とは、行政が住民の「質の向上」を目的として行うものであり、これにたずさわる土木技術者にはこれを達成する技量が問われている。

住民は生活を行う上で必要不可欠な経験的地域生活情報（歴史、風土、文化および慣習など）を保持しており、事業の成否はこれを引き出したうえでより質の高いサービスを提供することに左右される。しかし、住民参加という形態上の模倣では、住民の意見・要望を複雑化させるだけで不満や不信感の拡大をまねく事例も少なくない。

そこで本研究では、地域計画における住民参加の基礎的資料を得るために、市民参加による地域計画課題の発見について検討を行った。つまり、呉市においてワークショップを開催し（写真-1）、プロブレム・シーキング手法を用いて、市民による都市計画課題の発見とその解決手法を抽出した。

2. プロブレム・シーキングについて

プロブレム・シーキング¹⁾とは、設計のための目的や要求条件を明確化する手法であり、建築課題の発見や建築プロジェクトの業務計画で実践されている。この手法は、5つのステップ（1.ゴールの確立、2.事実の収集と分析、3.コンセプトの発見と検証、4.ニーズの決定、5.課題の提示）と4つの考察（機能、形態、経済、時間）により、プロジェクトを進行させるものである（図-1）。複雑化したプロジェクト条件のコンセンサスづくりや合意形成により良く機能する特徴がある。本研究では、プロブレム・シーキングを活用して、住民自らが地域計画を自主的に発案（意見）し効率的に整理しようとするものである。

3. 研究概要

3.1 目的と対象

研究対象とする広島県南西部の呉市は、明治22年の呉鎮守府開庁によって、半農半漁の村落が海軍基地（軍港）として大きく発展した地方都市である（昭和20年：人口40万人）。現在、造船、鉄鋼等の企業が産業構造の転換を行っており、地方拠点都市として新たなまちづくりを進めている。そこで、呉市の魅力が再認知され多くの人々が呉を訪れるために、呉市在住の高齢者を対象にワークショップを2回開催した（呉史談会会員、第1回：13名、第2回：18名）。高齢者の経験を踏まえ、まちづくりの目的や要求条件を明確化し地域計画課題の発見を行った。



写真-1 ワークショップの状況

	1 ゴール	2 事実	3 コンセプト	4 ニーズ	5 課題
機能	○	○	○	○	○
形態	○	○	○	○	○
経済	○	○	○	○	○
時間	○	○	○	○	○

図-1 情報の体系化¹⁾



写真-2 意志決定のためのプレゼン

キーワード 市民参加, 地域計画, 課題発見, ワークショップ, プロブレム・シーキング

連絡先 〒737-8506 広島県呉市阿賀南 2-2-11 TEL0823-73-8486

3. 2 活動内容

参加者を3グループに分け、各グループ4～6名でそれぞれワークセッションを行った。ここでの議題は、プロブレム・シーキングの5つのステップに準じて、①今後、呉市をどのような街にしたいか（まちづくりのゴール）、②そのために何を知っているのか（存在するもの、地物）、③それを達成するためにはどうすればよいか（新しい魅力創出のアイデア）の3つについて議論し各グループで総括した。なお、各グループには被験者とは別にファシリテーターと記録者を配置している。ワークセッションのとりまとめとして、グループごとにファシリテーターが総括のプレゼンテーションを行いグループ内の意思確認を行った（写真－2）。

4. 結果および考察

ワークショップにより得られた結果を表－1に示した。これより、各グループにおいて複数のまちづくりのゴールが提示されその数は合計16となった。これらを機能・形態・経済・時間の4つの考察に分類し、呉市における地域課題の位置づけを把握した。特に、人やその活動が関係する「機能」部分は、高齢者、若者がキーワードとなり、環境や品質に関する「形態」部分は、平和が重要となった。続いて、ゴールに対する事実の収集を行った。神社や公園、自然、旧軍施設などが把握された。最後に、達成するためのコンセプトの発見と検証を行った。その結果、点字ブロックの設置やしつけにいたるまで、具体的な提案がなされた。

以上の結果、プロブレム・シーキングにより市民自ら地域計画課題の発見が可能となることが理解できた。

5. まとめ

ワークショップにプロブレム・シーキングの手法を用いた結果をまとめると以下ようになる。

- 1) 呉市の現状や地域特性を踏まえ、複数の街づくりのゴールを抽出することが可能であった。
- 2) フレームワークによる分類の結果、地域課題の探求が明らかとなり全体課題が把握された。

本研究は緒についたばかりであり、今後意志決定者や実施体制を取り込んだ上で、公共事業における良好な住民参加システムを確立する予定である。

参考文献

- 1) ウィリアム・ペーニャ、スティーブン・パーシャル（溝上裕二訳）：プロブレム・シーキング/建築課題の発見・実践手法、彰国社、2003

表－1 フレームワーク

	ゴール(Goals)	事実(Facts)		コンセプト(Concepts)
機能 (Function)	自衛艦船隊が見える街 人が集まる街 道路が整備された街 高齢者にやさしい街 若者が活躍できる街 人が呉に定住できる街 安全な街 地域で皆の心が通い合う街	念佛坂 屋台通り 亀山神社 鯛之宮 大歳神社 海上保安大学校 IHI 戦艦大和建造ドック跡 入船山	殉国の塔 音戸の瀬戸公園 長渠の碑 国立病院呉医療センター 呉市中央図書館 中央公園 堺川の公園 本庄水源地 階段住宅	交通の便をよくする バリアフリーの普及 点字ブロックの確保 個々の意識改革 地域で子供のしつけをする お年寄りの後姿を見せる
形態 (Form)	平和が実感できる街 文化が実感できる街 旧海軍の風習の残った街 治安がいい街 魅力がある街 若者が中心となる街	灰ヶ峰 串山公園 歴史の見える丘 二河峡 高烏台	二河公園 音戸の瀬戸公園 松並木 美術館通り	自衛艦船隊を見えやすくする 名所を作る 若者向けの平和学習を開く 殉国の塔の移設 核家族化を防ぐ
経済 (Economy)	収入がある街			観光PRをして観光収入を上げる 財政の仕組みを見直す 雇用を増やす
時間 (Time)	世代間の格差がなくせる街			各年代の趣味に合わせた場の提供